

Interview▶▶大森 弘則 院長

院長
大森 弘則 先生

医療法人弘昭会 大森整形外科リウマチ科 (福井県福井市)

「大森整形外科リウマチ科」は人工関節手術と脊椎手術を中心に、多数の手術を行っている。2015年に増改築された院内には充実した最先端医療機器だけでなく、随所に患者さんと職員のことを考えた設計がなされている。磨き上げられた手技と最先端技術によって質の高い医療の提供を目指す院長の大森弘則先生(写真)に、これまでの取り組みや今後の展望などについて伺った。



自身のペースで高度な医療を追求するために開業

私が整形外科を選んだ理由はまず、老若男女を問わず患者層が幅広く、多くの疾患の診断から治療までを整形外科のなかで完結できることです。また、高齢社会における運動器障害やスポーツ医学、予防医学など、その専門領域の広さにも惹かれました。

福井医科大学(当時)を卒業して整形外科に入局した後は人工股関節の研究と臨床に携わり、本当に多くの手術や経験を積むことができました。しかし、40歳を過ぎた頃から、それまで培ってきた自分なりの医療を自分のペースで追求してみたいと考えるようになり、2003年12月に福井大学を退職し、2004年4月に当院を開業しました。

安全かつ良質な医療を目指した施設作り

開業当初から手術室と入院施設を重視し、医療機器も必要な物は妥協することがありません。ナビゲーションシステム(写真1)や1.5テスラMRI(写真2)などの最先端医療機器を導入し、人工関節再置換術に必要な加温処理器、超低温冷凍庫も配備しています。また、開業から10年を機に、大規模な増改築も行いました。患者さんが快適な環境とするだけでなく、職員の働きやすさも重視して、全国の病院を見学し、建物の外観や内装、細部に至るまで設計から携わりました。エントランスホール(写真3)やリハビリテーション室(写真4)は、明るく広々として開放的な気持ちになると患者さんから好評です。病室には読書机や間接照明を設置し、院内にカフェルームも作りました。研修ホールは最大



写真1

人工関節手術の精度を高め、最小侵襲にも有効なナビゲーションシステム

写真2 高精度で高画質の1.5テスラMRIを導入



120名を収容でき、院内の会議や勉強会、患者さん向けの講演会などに使用しています。

県外からも多くの患者さんが来院されるため、駐車場は100台分のスペースを確保しています。処置室に点滴用リクライニングチェアを設置して、関節リウマチに対する生物学的製剤などの注射投与も行っています。また、内科と脳神経外科の先生には非常勤で定期的に外来診察をしていただき、術前の診察・相談、合併症リスクや周術期の管理にも協力いただいています。

当院のリハビリは運動療法を中心として、術後24時間以内の早期から行うのが基本です。入院の患者さんに対しては、14名の理学療法士と作業療法士が365日毎日きれ目のないリハビリを行っています。また、夕方や土曜日にも外来診療を行い、患者さんの立場に立った医療を提供することを心がけています。

高度な技術と最新機器で質の高い医療を提供

当院は19床の有床診療所でありながら手術に特化し、全身麻酔手術を多数行っています。2004年の開業から2018年7月末までに全身麻酔による手術を3,161件実施し、そのうち人工関節手術は1,970件、脊椎手術は674件と県内有数の手術数です。

人工関節手術を受けた患者さんの最大の関心事は長期的な耐久性で、それには人工関節の適切な選択と設置が重要です。そのために術者の技量や経験が必要なのはもちろんですが、より高い精度を確保するため当院では「コンピューター支援手術」を導入しています。CTデータをもとに3次元術前計画ソフトウェアで適切な人工関節のタイプと大きさ、設置位置と角度、脚長差補正を計算し、可動域シミュレーションによって安定した固定と脱臼を回避する精密な設置計画を立てています。さらに、この術前計画に沿って忠実に人工関節を設置するために、ナビゲーション手術を行っています。ナビゲーションシステムによって1°、1mm単位で精度の高い設置ができ、人工股関節置換術後の脱臼は激減しました。また、ナビゲーションシステムによって血管や神経を避けた最小侵襲手術が行え、術後翌日からの歩行や早期退院が可能となります。このようなコンピューター支援手術を導入している施設は、北陸3県に数えるほどしかありません。

加えて、当院は人工関節再置換にも対応していま

写真3 ホテルのようなエントランスホールは訪れる患者さんの気分を明るくする



す。再置換術では骨の欠損部分を補うための骨移植が必要ですが、設備への要求が高く、福井県では大学病院以外にごく少数の施設に限られています。他にも、関節を温存する骨切り術や関節リウマチの特殊な手術も多数行っています。特に股関節の骨切り術は高度な技術が必要で、実施可能な施設はさらに限られます。

脊椎の手術は副院長の前澤先生が担当しています。脊椎手術で最も多いのは、主に若年者の椎間板症や加齢に伴う脊椎変性疾患に対する腰椎の手術です。最近では、骨粗鬆症に伴う腰椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術(BKP)が増えて年間約30件以上行っており、県内トップクラスの数です。

充実した職員の教育・職場環境も病院発展につながる

このように施設を拡充し、最先端技術を取り入れて高度な医療を実践・維持していくには職員が非常に重要です。そのため、当院では教育システムをしっかりと作り、医療に関するだけでなく接遇についても定期的に研修会を行っています。一方で、職員に働きたいと思ってもらえるような職場環境作りも必要で、増改築の際には仮眠室やバスルームなど職員用の設備を充実させました。開業当初は16名だった職員が今は50名近くになり、日々の業務を行いながら、勉強にも熱心に取り組んでくれています。

高度な医療を提供し続けるために

開業医という経営者の立場では、新しい挑戦は容易ではありません。日々の診療と経営に追われているだけでは技術は色褪せ、常に新しいものを取り入れている周りの大病院に遅れてしまいます。そうならないよう学会参加や情報収集など医療の進歩に対して常にアンテナを張り、可能なものは積極的に取り入れて、今後も高度な医療を提供し続けたいと考えています。

一方、これまで当院は急性期を中心としてきましたが、維持期のリハビリのニーズが増えてきたことから、2015年に通所リハビリテーション「ロコモケア」を院内に開設し、介護保険を利用した短時間型のリハビリサービスを提供しています。今後は当院の設備をより活用して、地域住民の健康に貢献し続けていきたいと考えています。

写真4 開放感あふれるリハビリテーション室は吹き抜けと大きな窓から自然光が差し込む



医療法人弘昭会 大森整形外科リウマチ科

大森整形外科リウマチ科は有床診療所でありながら高度な手術を数多く行い、福井県内有数の手術件数を誇る。開業から10年を機に行われた大規模増改築や最先端医療機器の導入により、ますます安全性、機能性が強化された。患者さんに優しく安全第一で、信頼できる良質な医療が提供されている。

〒918-8205 福井県福井市北四ツ居3-14-12 TEL:0776-57-5000
http://www.omori-seikai.or.jp